

日本のソーシャルワークにおけるポストコロニアル・フェミニズムの応用可能性 ースピヴァクの「サバルタン」概念に焦点をあててー

○ 明治学院大学 宮崎 理 (8539)

キーワード：ポストコロニアル・フェミニズム、ソーシャルワーク、サバルタン

1. 研究目的

女性に対する抑圧の問題に取り組もうとする際に、「女性の複数性」を考慮することは極めて重要な点である。しかし、日本の社会福祉学では、女性を再生産労働の担い手として「子ども家庭福祉」の分野のなかで一括りにしがちである。あるいは、「個人化」を軸にしてジェンダー概念が導入されることによって、抑圧を再生産する近代そのものを問う視座は後景に退かれがちである。そこでは、「女性の複数性」への視点はあまりみられない。人種的・民族的差異はその最たるものであり、それらと密接な関係にある植民地主義への批判は、忘れ去られてしまったかのようである。そうした現状の下では、例えば在日朝鮮人女性のように、植民地主義に根ざした交差的な抑圧にさらされている女性たちについて、ソーシャルワークが焦点をあてることは稀である。

本研究では、日本のソーシャルワークにポストコロニアル・フェミニズム (Postcolonial Feminism) の知見をいかに取り入れていくことができるのか、その応用可能性を探ることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

本研究は、文献研究である。まず、ポストコロニアル・フェミニズムの理論的特徴を整理する。つぎに、ポストコロニアル・フェミニズムの理論がソーシャルワークにどのように接続されてきたのかを概観する。そのうえで、重要概念のひとつであるスピヴァクの「サバルタン」に焦点をあて、日本のソーシャルワークが内包する植民地主義を指摘することを通して、ポストコロニアル・フェミニズムの応用可能性について論じる。

3. 倫理的配慮

本研究は、日本社会福祉学会倫理規程を遵守したものである。

4. 研究結果

ポストコロニアル・フェミニズムとは、フェミニズムが内包していた（いる）植民地主義を議論の俎上に載せ、フェミニズムのあり方を再考する思想であり実践である。それは、一枚岩の「女性」ではなく、多様な人種、エスニシティ、階級、セクシュアリティなどによる差異をいかに表象できるかを模索する営為である。単に「女性の複数性」に眼差しを向けるだけでなく、複数の社会的カテゴリーが生み出す抑圧の「交差（点）性

(intersectionality)」を問題化することでもある。

ポストコロニアル・フェミニズムの諸理論は、ソーシャルワークにも接続されてきた。それは、マクロ構造的な社会環境、植民地主義の歴史的背景、あらゆるレベルでの権力関係への分析を含んでおり、社会正義と自己決定に専門職がコミットするためのツールを提供している (Deepak 2014: 156)。

ポストコロニアル・フェミニズムの重要な概念のひとつとして、スピヴァクの「サバルタン」が挙げられる。スピヴァクが『サバルタンは語ることができるか』(1983)で発表した内容の趣旨とは、「女性が抵抗を行っても、社会的基盤がないために抵抗が人びとに認識されないのであれば、抵抗は実を結ばない」ということであった (Spivak 2006: 62)。それは、「抵抗として認識され得ない抵抗」が存在するということの指摘であり、一方的な力関係の中で、疎通が行われない構造的問題を告発するものであった。

ポストコロニアル・フェミニズムとソーシャルワークに関する議論から学び取ることができるのは、ポストコロニアルな抑圧にさらされている女性に関するソーシャルワークとは、彼女たちを「新たな支援の対象」とみなすことではないということである。また、彼女たちを語る言葉を持たない者とみなして語りの場を用意したり、あるいは彼女たちを代弁したりすることでもない。それは、新たな抑圧の形態でしかない。そうではなくして、いままさに存在する彼女たちへの抑圧を抑圧として認識すること、彼女たちによる抵抗を抵抗として認識することが必要である。そして、抑圧や抵抗がそのようなものとして認識されないのであれば、そこにはどのような歴史的、社会的、政治的な背景があるのかを明らかにし、協働の道を模索することこそがソーシャルワークに求められているものである。

5. 考 察

ポストコロニアル・フェミニズムは、2つの次元において日本のソーシャルワークに植民地主義の克服を迫るものである。ひとつは、植民地主義に根ざした交差的な抑圧を問題化することの必要性である。もうひとつは、ソーシャルワーク実践そのものが持つ植民地主義的側面を批判的に捉える視座の必要性である。それは、単に植民地主義に関する事柄を取り扱うべきであるということではなく、ソーシャルワークとは何かという根本的な問いを生起させるものである。

文献

- Deepak, A. C., (2014) A Postcolonial Feminist Social Work Perspective on Global Food Insecurity, Journal of Women and Social Work, 29(2), 153-164.
- Spivak, G. C., (2006) Conversations with Gayatri Chakravorty Spivak, Seagull Books.

(謝辞) 本研究は JSPS 科研費 (21K13462) の助成を受けたものである。